

アルミ相場の急騰などを受けて増加

アルミ圧延品、二次合金生産ともに二桁台の増加

アルミ橋本健一郎氏リポート②

■国際概況
 九月前半は、トヨタ自動車による東南アジアでの新型コロナウイルス感染症大を受けた部品



橋本健一郎氏
 トヨタ自動車による東南アジアでの新型コロナウイルス感染症大を受けた部品

年同月比七・五%増、六カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は六、一四七千戸。前年同月比二・二五%増、五カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八五五五千戸。前月比七・七%減、先月の増加から再びの減少。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一七九七%増の一四三、二次合金が二四〇%増の二、三三四、スクラップが一四%増の二万〇、〇〇五、アルミ缶が四・五%増の六、八六〇。

輸入

輸入は新地金が前年比五三%増の二万九五四、二次合金が二四九%増の九万二七一、スクラップが三六%減の四〇五、合金スクラップは九二%増の六、四七四。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一四・三%増の二万五、三三三と八カ月連続プラス。

アルミニウム一次合金・合金生産量は前年比〇・九%増の五万五、〇四一と二〇カ月連続プラス。出荷は〇・一%増の五万五、四九七と二〇カ月連続プラス。(六面へ続く)

供給不足が原因とする九月と十月の合計約四〇万台の生産台数削減を発表したと、雇用統計を受けてアルミ株の感応拡大による経済成長の鈍化に対する警戒感が強まるなかリスクオフの都合が重なったことなどのマイナス材料もあったが、中国がCO2排出削減方針に基づいてアルミ生産の制限を進めていることとポキサイト主要産出国のキニアで政情不安が続いていることを好意しLMEアルミ相場はUP、九月十五日時点で一八四七ドル(セツル)と月初価格から二三三ドルUPの前半締めとなった。

後半は中国の二酸化炭素排出削減措置と、これに伴う電力供給量の減少が原因となった工業用金属の需給減緩和や中国不動産大手・恒大の経営悪化に対する警戒感などのマイナス材料があったが、米国のインフレ上昇懸念の緩和とこれを受けた早期テールパニング観測の後退及びドル売り傾向、中国不動産大手である恒大集団が社債の利払いを発表すると発表したことを好意しLMEアルミ相場はUP、九月末日現在、後半スタート価格から四五ドルUPの二七二四ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
 一一〇・九〇→一一二・二六五(円)。

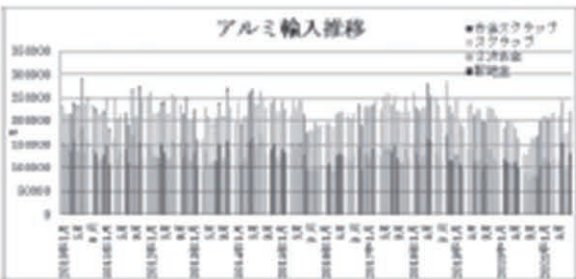
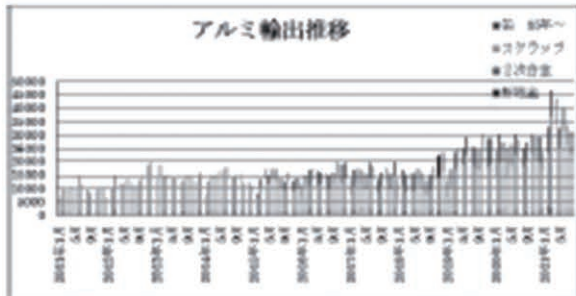
◆自動車生産台数
 生産動態統計によると、八月の自動車生産台数は前年比一六・三%減の四四万八、四三四台。

◆自動車販売台数
 日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇%減の二〇万五、四三三台。

◆住宅着工戸数

八月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比七・五%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比七・七%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万四、三〇三戸。前



スクラップ需要が旺盛―挽回生産に向けた在庫積み上げ背景に

(四圍より続く)

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産額統計によると、八月の自動車生産台数は前年比一六・三％減の四四万八、四三四台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇％減の二〇万五、四三三台。

うち乗用車三一・七％減、貨物一三・一％減、バス二〇・七％減。

【住宅着工戸数】

八月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比七・五％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比七・七％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万四、三〇三戸。前年同月比七・五％増、六カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、一四七千㎡。前年同月比二・五％増、五カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八万五千戸。前月比七・七％減。先月の増加から再びの減少。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一四・三％増の一三万五、三三三と八カ月連続プラス。

このうち板類は八万二、五三〇トンで一四・四％増と八カ月連続プラス、押出類は五万二、八三三トンで一四・二％増と六カ月連続プラス。

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比二〇・九％増の五万五、〇四二と一〇カ月連続プラス。

出荷は二〇・一％増の五万五、四九七と一〇カ月連続プラス。

【輸出】

輸出はアルミニウム新地金が前年比七九・七％増の一四三、一七三と、二次合金が二四〇％増の二、三三三と、スクラップが二四％増の二万〇、〇〇五と、アルミ缶が四五％増の六、八六〇と。

【輸入】

アルミニウム新地金が前年比五三％増の二、二九九五と、二次合金が二四・九％増の九万、七一一と、スクラップが二三・六％増の四〇、五〇五と、合金スクラップが九・二％増の六、四七四と。

【目録通し】

・八月の自動車生産が一六・三％減。九月

国内販売台数が前年比三〇％減。生産、販売ともに急減少―半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとのこと。

今後に注視。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一四・三％増の一三万五、三三三と八カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比二〇・九％増の五万五、〇四二と一〇カ月連続プラス、出荷は二〇・一％増の五万五、四九七と一〇カ月連続プラス。

プラスが続くか注視。

・アルミ輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて大幅増。

・アルミ輸入は輸入値の高騰による代替需要の国内玉の不足から大幅増。

【スクラップ需見予想】

流通(一次開屋)在庫はLME価格が前月一段高の二、七〇〇―二、九〇〇ドル台で高止まりしたことから玉不足は続く。

需要面に関して、前月に続き中国の部品調達遅れの遅れからの自動車生産の減少傾向があるが、挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する間屋も多く、定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が今月も続く。

【LME・為替予想】

今月は、

① 中国の二酸化炭素排出削減措置と、これに伴う電力供給量の減少が原因となった工業用金属の需要減退懸念

② 中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題に左右される。

①に関して、いままでも環境問題に関しては強硬な態度で臨んでおり工業用金属の需要減退懸念は今月もつづくのではないかと。

②に関しては、救済する、しないの二択ではなくマーケットの様子を見ながらの解決策を行う可能性が高く上下とも動きにくい状況になるのではないかと。

これらを踏まえた十月のアルミ価格は二、八〇〇―二、九五〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇九円―一一一元(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据え置きから五円高程度と予測している。